

信用保証, リレーションシップ・バンキングと地域金融

早稲田大学大学院 大熊 正哲

概要

90年代後半以降, 日本の公的信用保証制度は保証先企業の倒産, およびそれに伴う代位弁済の大幅な増加を経験している。しかしその上昇幅は地域によって一様ではなく, 貸出市場における地域金融機関のプレゼンスが大きい都道府県ほど, 代位弁済率の上昇が抑制されるという関係が存在する。これは営業エリアでの「名声」を重視する地域金融機関が, 積極的な情報提供や貸付条件の緩和等を通じて地元企業の破綻を回避した結果である - 本稿の目的は, この仮説の妥当性を実証的に検証することである。本稿の主なファインディングは以下である。90年代後半の特別保証制度の導入によって代位弁済が急増するなかで, 地域金融機関については自らの取引先である保証先企業の破綻を抑制した。しかもこのような関係が特別保証制度の導入以前にも存在したという積極的証左は得られず, 制度の導入前後で地域金融機関, もしくは都市銀行をはじめとする主要行のいずれかにおいて, 保証先企業に対する融資態度に構造変化が生じた可能性が高い。このような分析結果は, 今後の公的信用保証制度のあり方や, 「リレーションシップ・レンダー」としての地域金融機関の存在意義を考える上でさまざまな示唆を与えるものである。

JEL Classification numbers: G14, G28, G38

Key Words: 信用保証, リレーションシップ・バンキング, 地域金融